

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム つばきはうす
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鳥取県鳥取市覚寺180
記入者名 (管理者)	濱野 哲晃
記入日	平成 19 年 7 月 5 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>認知症高齢者の尊厳を守り、家庭的で楽しく安心できる環境を提供しながら、生きる喜びと自信を持てる暮らしを支援していくよう理念を掲示し、日常的に職員に伝えている。また地域とのつながりや家族との関わりを大切にしたいケアに取り組めるよう実践している</p>	<p>○</p> <p>地域にどのように貢献していくかの理念も加えていく必要がある</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>スタッフ会議やミーティングなどで、理念に基づくケアが行えるよう話し合い実践している。またホームの現状に合わせた年度の目標や月目標などを立てケアに取り組んでいる。運営理念の他にも利用者の側に立った生活理念も掲示し、実践できるよう取り組んでいる。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>入居時に説明したり毎月のお便りや、日常的な会話などでご家族へは伝えている。また広報誌を配布したり、運営推進会議の開催などで地域の人達にも利用者が地域の中で暮らすことの良さを伝えていっている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>隣の事業所との付き合い、交流は深く一緒に買い物に行ったり、畑を共同で作ったり、調味料の貸し借りなど気軽に立ち寄ってもらっている。またスーパーや散歩に出かけた時なども、地域の方から声をかけてもらったり挨拶したりしている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地元幼稚園と交流の場を定期的にもったり、地域へのイベントなどには積極的に出かけるようにしている。また広報誌を利用者と一緒に配りに出かけたり、獅子舞を披露してもらったりしている。法人内の納涼祭に大勢の地域の方が参加され、交流の場ともなっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域との交流の場はまだまだ少ないが、広報誌を発行することで認知症や介護に関する情報を発信したり、ボランティアなどの受け入れにより認知症に対する知識の啓発を行っている。</p>	○	<p>地域高齢者のために、グループホームとしてどう貢献できるか情報収集し検討していきたい</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価に職員全員で取り組み、自分たちのケアを見直すことができている。結果を共有し取り組むべき課題を話し合い、実践できるようにしている。外部評価での改善事項にも検討を加え、し速やかに対応している。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議を行うことで、地域の方やご家族、医療機関の方など話し合いができ、様々な意見交換が行われた。またその機会が増えた。その中でも地域の認知症高齢者への関わり方についての意見も聞かれ、地域の方のグループホームや各施設への関心の高さを知ることができた。この機会を大切にサービス向上に努めたい。</p>	○	<p>グループホームの雰囲気伝える為にもホーム内で小人数で行う事も計画していく</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>施設長が医療部門の業務と兼務しているため、市担当者と話し合う機会が多く持っている。</p>	○	<p>連携の機会が少なく判断しがたい</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在までに成年後見制度を利用する入居者は居ないものの、法人内のグループホームで利用されている方も何名か居られ、情報提供を受けたり、医療部門のソーシャルワーカーと相談したり、必要に応じて利用を支援する体制をとることはできる。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>開放的な施設作りに努め、職員全員が高齢者の尊厳を守る努力をし、常に真心のあるケアを提供する姿勢を作っている。また法人内でコンプライアンス制度が発足し、施設内で報告しづらい場合でも相談しやすい体制になっている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じた法人内の研修への参加や、県や市、グループホーム協会等が主催する研修へ参加している。勤務者を確保しなくてはならないため、希望の参加が限られるが報告書を回覧し皆で学習できるようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に入会しており、研修会や事例検討会などで学習するよい機会となっている。同業者との情報交換の場ともなり参考となるものは取り組んでみている。相互研修へは毎年参加し他事業所を体験することでサービスの質の向上を図っている。	○ 相互研修などで親しくなった事業所との交流が約束だけになってしまっており情報交換だけで終わらないよう実行に移したい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日頃から声をかけ合い、相談しやすい環境づくりをしている。また年に1度個人面談をする体制がある。年に何度か飲み会を開催しストレス解消の場を作っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人として、職員の資格習得や研修参加を後押ししてくれる環境がある。また管理者、職員を信頼し介護業務に関して責任をもって取り組めるよう配慮しており、毎日足を運び入居者、職員の様子を把握してくれている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に施設見学や面談を行ったり、ご家族や現在いる事業所などから多くの情報を収集し本人を知る努力をしている。今まで職員は本人に対して、入居後からの関わりとなってしまうので、入居前にも管理者に同行し本人と直接話をするような体制に移行している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に施設見学や面談を行い、様子を聞き取る機会を作っている。どの職員もご家族とのコミュニケーションを大切に、様々な悩みや事情を聞き受け止めるよう取り組んでいる。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の意向に沿った対応となるよう努めている。相談の内容に応じて、ケアマネージャーやソーシャルワーカーと連携を取り、必要とされるサービスの提供が行われるよう相談、助言をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用にあたり、事前に施設見学をしてもらったり、法人内に入院や通所されている方には、遊びに来ていただいたりしながら、馴染むことができるよう柔軟に対応している。今年度よりショートステイの利用も可能となり、利用者にとっては段階的に馴染んでいけるような体制もとれる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者個人をよく知り、主体としながら共に生活し馴染みの関係を築いていく中、職員が学ぶことが多く、相談したり、喜怒哀楽が表せる当たり前の生活を送れている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居時や普段よりご家族と一緒にケアに取り組んでいくとの考えを伝えており来訪時、家族会、電話など意見、情報交換を密に行いながら本人のために一緒に取り組んでくださることができている。どのご家族も家族会へは誰かが参加できるよう調整して下さっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の様子を知って頂くために、手紙や電話を利用したり、外出、外泊などの支援も行っており、家族も協力的である。家族会や行事などでも職員がよりよい関係を築けるよう間に入り支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力も得ながら、故郷訪問や馴染みの美容室の利用、家族だけでなく友人、隣人、弟子など様々な方との交流も維持できている。外出の機会も多く持ち名所や本人にとって、なじみの場所へドライブや買い物に出かけるなどの支援に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	時々トラブルはあるが、思いやり、教え合い、助け合いの場面が利用者同士で見られる。職員は人間関係を把握し、それぞれの思いを聞く姿勢を持ちながら良好な関係が築けるよう支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了に至ってもその後のケアについて法人内の医療スタッフやソーシャルワーカーと連携し状態に応じたケアの提供に努めている。入院された方に入居者と一緒に会いに行ったり、退居された方のご家族からの相談にも応じることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中での会話や行動観察、表情や言葉の変化などに気を配り、本人の意向を把握しながらケアを柔軟に変えている。ご家族からの情報を基に本人本位の生活が実現できるよう、スタッフ会議で検討し取り組むようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメント表を利用し、本人やご家族などからの情報を記録している。暮らしの中から出てくる思い出話など、記録し本人の生活歴などの把握に努めている。	○	センター方式についてはまだ勉強中で十分に活用できていないシートもあるため努力していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	心理面の変化、心身の状態など記録し暮らしの現状を把握できるようにしている。またその中で一人ひとりの生活リズムも把握し、有する能力を無理ない範囲で発揮できるよう努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフ会議から各利用者の現状、課題を話し合い、本人やご家族の意向を取り入れながら担当スタッフが中心となって計画作成担当者と共に介護計画を作成している。1か月に1回、変化があれば随時計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一ヵ月ごとの見直しは実行でき介護計画も立てられている。変化が生じたり通常と異なる対応が必要となった場合などは本人、ご家族、職員間で話し合い新たな計画を立てている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フォーカスチャータリング様式を使用し、日々の記録を行っている。内容として医療的なこと、認知症状で普段と変わった言動、本人の要望、過ごし方で変わった様子などを記している。また実施したサービスや予定、体調など見やすいように1週間分のチェック式記録様式も使用している。記録の形式は利用者の状況把握に十分なものとし申し送り以外にも、見れば分かる形となり情報の共有や見直しにつながっている。	○	記録の簡素化や簡単に的確な記録となるよう取り組む中でも統一したケアや見直しにつながる記録となるようにしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイ(短期型)サービスの届出を行い利用が可能となったことで、グループホームへの入居へ無理なく移行できる体制となっている。本人や家族の希望に応じ通院などの支援を行ったり、宿泊してもらうなど柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの来訪が盛んにあり楽器演奏や、幼稚園児との交流も定期的に行われており利用者の楽しみとなっている。また市立図書館を利用したり、渡辺美術館を利用させてもらったりと利用者の意向に沿い地域の協力を得ている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の生活習慣や性格などを考慮し、デイケアセンターを利用されている方もいたり、必要に応じて病院への入院や他施設の紹介、介護機器の紹介などケアマネジャーやソーシャルワーカーなどと相談し支援している		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ地域包括支援センターと協働しての活動はない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各利用者の主治医と連携し、必要に応じた速やかな受診ができる。他科受診は協力医、または本人や家族が希望とする医院への受診も支援している。夜間も当直医の協力が得られ利用者、家族の安心につながっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導の声かけや介助の仕方などプライバシーを考慮し、個別に合わせた介護の工夫を日々話し合い、細かに変えながら対応している。個人名のついたものなどは、不要となるとシュレッダーをかけたり第三者に情報が漏れないよう、取り扱いには注意している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者本意で生活を送れるよう自主性を尊重し、決めた活動に参加したり、得意な場面で参加できる働きかけを行っている。`する` `しない` は利用者が決め `しない` が続く利用者には働きかけを工夫しながら、意欲が向くように支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の生活の流れができてしまっている面があるが、利用者がその流れを定着させ自主的に動いている面も見られる。また体調や気分により利用者のペースで生活できるように配慮している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容美容は本人の望む店に行けるように努めている	いきつけの美容院に家族が継続して連れて行ってくださったり、白髪が目立つ方は、家族が染めてくださったりすることもある。外出先に合わせておしゃれ着に着替えたり、個別に好みの化粧品を購入し利用することも自然と行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に利用者の希望を組み込んだり、能力や興味に合わせて調理、盛り付け、配膳、食器洗い食器拭き等に携わっていただいている。職員も一緒に食べ、楽しい時間となるよう心がけている。馴染みのある物や自分で選び購入した茶碗などを使用している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望にあわせ食事時お酒を飲む方もいたり、買い物も自分の好むおやつを購入したりお茶の時間もコーヒー、冷たいもの、昆布茶など好みの物を選んで飲んでいただいている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンをつかみ、トイレ誘導を行ったり、日中はできるだけ布パンツで過ごしていただけるようにケアしている。失禁の際の清拭を行い、清潔保持や不快の除去に努めている。また夜間は少しでも安眠を図れるようパットの使用を工夫検討している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午前、午後を問わず希望に応じて入浴できるようにしている。毎日希望の方や一日おきなど、希望に応じ利用していただいている。ゆったり入浴を楽しめるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活状況を把握し、体調や希望に応じ自由に休息していただいている。室温や照明も個人に合わせて調整している。生活リズムをつくることで眠剤に頼らず安眠できるようになった方もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来る事、出来ない事を把握し、その人らしく過ごせるよう役割や活躍の場を大切に支援するよう心がけている。気晴らしに少人数で外食に出かける機会も定期的に持ったり、行事的に皆で出かけることも積極的に行っている。一人ひとりの興味の持てることを取り入れ、日々の生活が楽しく送れるよう支援している。	○	話やコミュニケーションの機会をもっととりながら個々の生活歴やしたいこと楽しみなどを知り活かしたい
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談の上いくらかお金を所持していただいている方もいる。買い物の際、必要なものは自分の財布からお金を払われる方もおられる。食材購入の際にも、支払い時には能力に応じ財布を渡して支払いをして頂くよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほぼ毎日、散歩や買い物、ドライブなどで外出の機会を持っている。希望に応じて図書館を利用したり畑、ゴミ出し、花の水やりなど目的を持って出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事、家族会など郊外へ出かけ家族も一緒に楽しむことができる。個別の外出でも個人の住み慣れた町をドライブしたり、外食したり、希望があれば故郷訪問もしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話があったり、本人が電話をかけることも多く見られる。職員の付き添いで年賀状や季節ごとの葉書き、家族知り合いからの手紙の返事書き等大切な人とのやり取りを支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人の訪問が多く、当事者だけでなく他利用者とも馴染みとなり、皆で会話したりでき居心地よく過ごせていると感じる。県外の家族でも月に1回程度は訪問される家族もある。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者、職員全員が身体拘束はしないケアを理解し取り組んでいる。日中は開放し自由に入出りでき、徘徊のある方にも見守り確認を重視し、落ち着かない場合も一緒に歩いたり、本人の行動に寄り添うようにしている。転倒の危険がある方も、普段の生活が送れるよう見守りを重視するよう配慮している。主治医と連携しながら薬に頼らず落ち着いて過ごせる関わりに努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は夜間のみ(19時～7時)で防犯上の理由である。日中は開放し、施錠は玄関のみで各居室は利用者が自分でかける以外は開放してある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の自由な行動の中にも見守りを行い、利用者と一緒に過ごしながらか記録を書いたり、所在確認や安全に留意している。夜間も定時に巡視し、注意を要する利用者には状態にあわせ、確認回数を増やすなど配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居の際、火の元になる物の持ち込みはしないよう説明している。個人の状態に応じ必要に応じた管理に努め、使用時には見守りの中自由に使用できるようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個人の状態に合わせた危険予測を行い、付き添い、見守り、預かり等状況に合わせた配慮を行っている。使用時には見守りの中自由に使用できるようにしている。包丁や薬品などは、使わない時は手の届かないところや鍵のかかる所へしまっている。ヒヤリハット報告書を記入し、職員全員に回覧し今後の対策検討や振り返りにいかしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に消防訓練を行ったり救急蘇生法の勉強会や研修参加を行っている。マニュアルもあり急変時にも速やかに対応できる医療機関との連携が昼夜問わず備わっている。	○	応急手当や救急蘇生法など定期的な勉強会を継続できるようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難経路の把握や避難訓練も定期的に行っている。火災報知機、スプリンクラー、消火器の設備が備わっており、緊急時の連絡手順も作成している。夜間は一人のため不安がないわけではないが、緊急連絡網を作成してあり、すぐに駆けつける体制をとっている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	体調の変化に伴って考え得るリスクを予測し話し合い、面会時やお便り、緊急時には電話するなど家族には説明している。些細な事でも実際報告・相談し利用者が伸び伸び生活することを大切に支援している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の体調変化を観察できる記録を整え、情報を共有し、変化を把握しやすくしている。利用者の体調に気を配り、状況に応じて看護師や医師に報告、相談の上指示を仰いでいる。	○	医療機関との連携の大切さを実感しておりさらにより関係が築いていけたらと感じる。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬中の薬の説明書はいつでも参照できる場所に置いてあり、不明な点は薬の本や薬剤師に問い合わせている。服薬は医師の指示を守りながら、利用者の状態に変化がみられる場合は、医師に相談の上中止したりしている。定期受診でも内服中の様子・変化を報告している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜を多めにバランスのよい食事作りを心がけている。適度な運動を心がけたり、水分量摂取量もチェックし主治医と相談しながら下剤の調整を行っているが、下剤に頼らず排便がスムーズになったり下剤の量が減っている利用者もいる。排便チェックを行い不審な言動と排便の関係がないか気を配っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを促したり確認している。利用者の状態に応じ見守りや自立の方は自室での促しを行っている。義歯の定期的な洗浄も行っている。認知症が進行している方は付き添いひとつひとつ声かけしながら清潔を保っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量に偏りのある場合は補食やこまめな水分補給で個人に合わせて対応している。食事、水分量をチェックしている。また好みの飲み物で水分が摂れるよう工夫している。栄養士に献立をチェックしてもらいバランスのよい献立となるようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人内の感染対策委員会に参加して情報収集を行い、季節的な感染症の流行に留意し、手洗い、うがいを励行している。感染症対策マニュアルも作成され把握できるようにしている。また予防接種も本人や家族と相談し接種するよう促している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材を購入し、特に生ものは当日購入することとしている。調理器具(まな板、包丁など)は毎日消毒したり、キッチン周辺もアルコール消毒をしたり流し台の小物に関してもハイター消毒を夕食後に必ず行っている。調理前の手洗いも必ず行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外玄関はやや分かりにくいものの鉢植えやプランター、ベンチを置くなど温かい感じとなるようにしており、利用者が玄関先でベンチに座りひなたぼっこしたり、水やりを行うなど工夫をしている。建物の構造・外観上親しみやすく安心して出入りのできるという点では工夫が必要と考えており、手作りの案内板で内玄関まで行きやすいよう工夫している。	○	玄関先で利用者がいろいろな過ごし方ができるよう工夫し、生活している様子を近隣の方にもっと見ていただき、声をかけてもらったり立ち寄っていただけるようになりたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気作りを大切にし季節感を取り入れた壁面づくりを利用者と一緒に取り組んだり、季節の花を活けたり、している。リビングは日当たりよく明るい環境であり調理の匂いや皆の会話が感じられる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファや椅子、和室があり利用者がそれぞれに心地よく過ごせる場所がある。家族や知り合いなどの来訪時には各居室や談話コーナーなどでお茶を飲んだり、話をしたり、思い思いに過ごしていただいている。風呂あがりなどマッサージチェアを利用されることもある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には馴染みのある物の持ち込みを促し、花や人形、写真など好みに合わせて飾りつけられ個性がある。本人や家族と相談しながら、少しずつ好みの物が増えたり、位牌や夫の写真をかざり毎日お経をあげお茶を供えるなど、心地よく過ごせるような居室作りを心がけている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気が良く暖かな日は、日中窓を開け外気を取り入れている。各居室も起床後や掃除時など換気に努めている。エアコン使用時は、気温や体調を考慮しながら、外気と大差なく温度設定している。冬季は加湿器をリビングに設置し湿度にも気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行に不安がある方も廊下や浴室に手すりが多く設置しており、安全に歩行できるようにしてある。ベッドからの起上がりがスムーズにできない方は、家族と相談しベッドに手すりを取り付け、自ら起き上がりができるようにしている。フロア内のダスキンマットはめくれたり、つまづかない様専用テープをはり、転倒防止している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の状態を把握し、混乱の原因となるものには貼り紙をしたり、その都度説明するようにしている。混乱がある際には本人の話をじっくり聞き、頻度や内容を記録に留めその方にあったケアの工夫に活かしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外玄関にはベンチを設置し散歩時の休憩やのんびり外で過ごせる場所として活用している。ベランダの花に利用者が気づいて水をやったり、天気の良い日はベランダに洗濯物や布団を干したり活用している。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		近い選択肢の左欄に○をつけてください	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項目		近い選択肢の左欄に○をつけてください	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者の生活の様子から読み取れる心理状況などの把握に努めその時に応じた適切なケアを工夫し提供している
- ・屋内に閉じこもらない生活を心がけ散歩、買い物、畑作業、外食など利用者と一緒に出かけるようにしている
屋内でも利用者が生活の全般(炊事、洗濯、掃除等)を行う事を重視する中で役割や楽しみが生まれ利用者同士が協同する場面も見られだす傾向にあり方針に沿ったケアが具現化できている
- ・自然と唄が聞こえてきたりよく話し、よく笑い、楽しく生活が送れている
- ・入居して便秘が無くなる、薬が減る、オムツに頼らなくなる、夜眠れるようになる、活気が出て明るくなるなどの様子が見られ以前送っていたような生活をする事で自然と心や身体が元気になると感じる。またそういう家庭らしい場としてあり続けたい。
- ・家族の協力が強く共にケアに取り組んでいただけている実感がある。





